

2018年9月23日実施「尾瀬の大切な歩荷さん」イベントQ&A



「質問に答えていただいた歩荷の渡部努さん」

渡部さんは尾瀬で歩荷をするようになって30年目だそうです！  
優しい笑顔がとっても印象的です。

Q1. なんで歩荷さんになったのですか？きっかけとかありますか？

A1. もともとは鳩待山荘で働いていて、その時ちょうど歩荷さんに3人くらい空きができたんです。そこで歩荷さんに誘ってもらって仲間と始めたのがきっかけです。

Q2. 重い荷物を背負っていてバランスを崩して転ばないのですか？  
転んでしまったらどうするのですか？

A2. はじめのうちは転ぶけど、経験を積むと上手になっていきます。最近は転ばなくなりましたね。転んだら荷物をつけなおします。転んだら組み直す、の繰り返しです。

Q3. 重いですか？

A3. 私たちも冬の半年間この仕事をしないので、シーズンが始まる5月ごろは30kgとかで始めます。徐々に荷物を増やして、6月のミズバショウのシーズンには80kgとか100kg背負えるようにしていきます。たしかに重いけど、慣れますよ。山ノ鼻地区では100kgくらいは背負います。

Q4. 1日に何回往復しているのですか？

A4. 赤田代地区や見晴地区、竜宮や東電小屋など、山ノ鼻地区以外は1回です。  
山ノ鼻地区は2回往復したりします。

Q5. くじけて歩けなくなることはありますか？

A5. 最近はないですね。始めたころは途中で歩けなくなることはありました。でも、歩荷として山小屋さんに荷物を届けるのが最低限の仕事なので、こういうことはないように

と、先輩からきつく言われています。

Q6. 荷物を落としてしまったらどうするのですか？

A6. 鳩待峠～山ノ鼻間だと、立てかけられる木に立てて、付けなおします。

Q7. やりがいはなんですか？

A7. 体を使って仕事をしている、という充実感ですね。あとは、山小屋のみなさんが喜んでくれる顔を見ることです。

Q8. アルバイトですか？料金は一日にいくらもらえますか？

A8. 歩荷として正式に半年、雇われています。料金は1kgいくらというふうに決まっています、あとは距離が遠い山小屋さんから少し高くなります。

Q9. 冬は何をして過ごしますか？

A9. 冬は日本酒を作っています。他の歩荷の2人も日本酒を作っています。あとは、スキー場で働いている人や、バックカントリーのガイドをしている人もいます。

Q10. 「歩荷」の仕事を無形文化遺産に登録した方が良いと思いますか？

A10. 考えてもみたことがないです！笑

でもみなさんにそう思っただけなのなら、登録してもらえればありがたいですね。

Q11. 尾瀬で運命の人に出会えた人はいますか？

A11. 結構いますよ。僕自身も歩荷をしていて、山小屋で働いていた人と結婚しました。みなさんも出会えるかもしれませんよ！

Q12. 将来の夢はなんですか？

A12. 歩荷の仕事は年齢とともに出来なくなっていく仕事なので、今後のことも考えますね。これから先も山に関わった仕事が出来ればと、ガイドの資格も取ったりしています。そういう仕事をしていけたらいいですね。

アンケートにご協力いただきました皆さん、意外な答えが返ってきたり、知らなかったことがたくさんあったのではないのでしょうか。

最後に尾瀬の素敵な歩荷さんの写真を撮らせていただいたので、載せておきます。今度、歩荷さんに会ったら、“荷物を背負っていないとき”に話しかけてみて下さい！



「奥さんも元歩荷さん！五十嵐寛明さん！」



「最近第一子が誕生しました！  
パパになったばかりの天田雄也さん！」



「冬はバックカントリーガイドです！萩原雅人さん！」

(※今回ご紹介した方以外にも歩荷さんはいらっしゃいます)

歩荷の皆さん、ご協力本当にありがとうございました！

当日のイベント実施報告はこちらから

<https://www.oze-fnd.or.jp/archives/88973/>